

# 東京都立八王子桑志高等学校 令和7年度 年間指導計画（シラバス）

教科・分野：	産業・ビジネス情報	科目：	情報スキル	単位数：	2	指導学年：	2
担当教諭：							
使用教科書	なし	副教材	スピードマスター ITパスポート試験テキスト&問題集（実教出版） 身につく！合格！ITパスポート（インフォテック・サーブ）				

年間指導目標：

ビジネスの考え方や見方を通して、実践的・体験的な学習活動を行い、ビジネスにおける諸活動においてソフトウェアの活用に必要な資質・能力を育成する。

	知識・技能（知）	思考力・判断力・表現力（思）	主体的に学習に取り組む態度・学びに向かう力（態）
評価規準	ビジネスの諸活動におけるソフトウェアの活用について実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けている。	ビジネスの諸活動におけるソフトウェアの活用に関する課題を発見し、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に解決しようとしている。	ビジネスの諸活動を改善する力の向上を目指して自ら学び、企業活動におけるソフトウェアの活用主体的かつ協働的に取り組もうとしている。

評価方法				
a:定期考査	b:パフォーマンス (実技・実習・課題)	c:小テスト等	d:自己評価	e:授業態度

学期	考査	単元及び指導内容	観点	評価規準					配当 時数	
				a	b	c	d	e		
1 学期	中間 考査	表計算ソフトウェアの活用 ・身近な事例を基にビジネスにおけるソフトウェアの活用を考える学習活動により、ソフトウェアの意義と重要性を理解する。 ・表計算ソフトウェアを通して、情報の集計と分析について理解し、様々な集計や分析方法、集計した情報から、分析結果を適切に表現する能力を身に付ける。	(知)	表計算ソフトウェアを通して、情報の集計と分析について理解し、様々な方法で分析することができる。	○	○	○			24
			(思)	表計算ソフトウェアを通して、情報の集計と分析について理解し、様々な方法で分析する能力を身に付けるとともに、分析結果を適切に表現することができる。	○	○			○	
1 学期	期末 考査	表計算ソフトウェアによる情報システム開発 ・表計算ソフトを利用した簡易な情報システムの開発を通して、ビジネス活動における改善を科学的根拠に基づいて、主体的かつ協働的に取り組む姿勢を身に付ける。	(態)	表計算ソフトウェアを通して、情報の集計と分析について理解し、様々な方法で分析する能力を身に付けるとともに、分析結果を適切に表現し、主体的かつ協働的に取り組むことができる。			○	○	○	

2 学 期	中 間 考 査	データベースソフトウェアの活用 ・データベースソフトウェアの特徴や基本的な機能を理解する。 ・データベースを活用するための知識と技術について理解する。	(知)	データベースに関心を持ち、効果的な活用方法や役割などを説明できる。	○	○	○			32
		データベースソフトウェアによる情報システム開発 ・データベースソフトを利用した簡易な情報システムの開発を通して、ビジネス活動における改善を科学的根拠に基づいて、主体的かつ協働的に取り組む姿勢を身に付ける。	(思)	データベースの演習に主体的な姿勢で取り組み、テーブル・クエリ・フォーム・レポート・リレーションシップの作成など、データベースソフトウェアの実践的活用のための知識と技術が身に付いている。	○	○			○	
2 学 期	期 末 考 査		(思)	データベースの演習に主体的な姿勢で取り組み、テーブル・クエリ・フォーム・レポート・リレーションシップの作成など、データベースソフトウェアの実践的活用のための知識と技術を身に付けるため、主体的・協働的に取り組むことができる。				○	○	○
			(態)	データベースの演習に主体的な姿勢で取り組み、テーブル・クエリ・フォーム・レポート・リレーションシップの作成など、データベースソフトウェアの実践的活用のための知識と技術を身に付けるため、主体的・協働的に取り組むことができる。				○	○	○
3 学 期	学 年 末 考 査	プレゼンテーションソフトウェアの活用 ・発表やプレゼンテーションソフトウェアを活用するための知識と技術について理解する。	(知)	プレゼンテーションの技法や役割、種類など理解でき、説明することができる。	○	○	○			22
		・プレゼンテーションの技法を理解し、その役割や要素、種類等について理解する。	(思)	プレゼンテーションの技法や役割、効果など理解でき、プレゼンテーションソフトウェアを活用するための知識と技術が身についている。	○	○			○	
		・プレゼンテーションソフトを利用して、効果的に発表する。。	(態)	プレゼンテーションの技法や役割、種類など理解でき、プレゼンテーションを活用するための知識と技術が身に付けるため、主体的・協働的に取り組むことができる。				○	○	
合計										78

# 東京都立八王子桑志高等学校 令和7年度 年間指導計画（シラバス）

教科・分野：	産業・ビジネス情報	科目：	情報実習	単位数：	3	指導学年：	2
担当教諭：							
使用教科書	なし	副教材	スピードマスター ITパスポート試験テキスト&問題集（実教出版） 身につく！合格！ITパスポート（インフォテック・サーブ）				

## 年間指導目標：

ビジネスの考え方や見方を通して、実践的・体験的な学習活動を行い、ビジネスにおける諸活動においてソフトウェアの活用に必要な資質・能力を次の通り育成するとともに、資格取得のため応用的な知識と技術の習得を目指す。

	知識・技能（知）	思考力・判断力・表現力（思）	主体的に学習に取り組む態度・学びに向かう力（態）
評価規準	ビジネスの諸活動におけるソフトウェア・ハードウェア、コンピュータに関する技術要素等の活用について実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する知識を身に付けている。	ビジネスの諸活動におけるソフトウェア・ハードウェア、コンピュータに関する技術要素等の活用に関する課題を発見し、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に解決しようとしている。	ビジネスの諸活動を改善する力の向上を目指して自ら学び、企業活動におけるソフトウェア・ハードウェア、コンピュータに関する技術要素等の活用主体的かつ協働的に取り組もうとしている。

評価方法				
a:定期考査	b:パフォーマンス (実技・実習・課題)	c:小テスト等	d:自己評価	e:授業態度

学期	考査	単元及び指導内容	観点	評価規準	評価方法					配当 時数
					a	b	c	d	e	
1 学期	中間 考査	ビジネスにおけるテクノロジー系の知識について理解を深める。 ・ネットワークや情報セキュリティポリシーなど、様々な手法やプロセスなどを理解する。	(知)	テクノロジー・マネジメントに関心を持ち、効果的な活用方法や役割など説明できる志向が身に付いている。	○	○	○			36
			(思)	テクノロジー・マネジメントに関心を持ち、効果的な活用方法や役割など説明できる志向が身に付き、ビジネスの中で、組織の一員として、役割を果たすための、思考や知識が身に付いている。	○	○			○	
1 学期	期末 考査	ビジネスにおけるマネジメント系の知識について理解する。 ・ビジネスにおける、システム開発の流れやプロジェクトマネジメントの目的、手法、プロセスなど理解を深める。	(態)	テクノロジー・マネジメントに関心を持ち、効果的な活用方法や役割など説明できる志向が身に付き、ビジネスの中で、組織の一員として、役割を果たそうと、主体的かつ協働的に取り組むことができる。			○	○	○	

2 学期	中間 考 査	ビジネスにおけるストラ テ ジ系の知識について理解す る。 ・ビジネスにおける法 務、財務、経営戦略、シス テム戦略など経営全般に関 して、理解を深める。	(知)	法務・経営戦略などに関心を持ち、効果的な活用 方法や役割など説明できる志向が身に付いてい る。	○	○	○			48
			(思)	法務・経営戦略などに関心を持ち、効果的な活用 方法や役割など説明できる志向が身に付き、ビジ ネスの中で、組織の一員として、役割を果たすた めの、思考や知識が身に付いている。	○	○			○	
2 学期	期 末 考 査		(態)	法務・経営戦略などに関心を持ち、効果的な活用 方法や役割など説明できる志向が身に付き、ビジ ネスの中で、組織の一員として、役割を果たそう と、主体的かつ協動的に取り組むことができる。				○	○	○
3 学期	学 年 末 考 査	業務処理用ソフトウェアの 活用と利用のマナー ・グループウェアを活用 することの利点と効率的に 業務を行う方法について理 解する。	(知)	グループウェアに関する知識、技術を身に付け、 企業活動の改善に対する業務の効率的な処理につ いて、組織の一員としての役割を果たすことがあ る。	○	○	○			33
			(思)	グループウェアに関する知識、技術を身に付け、 企業活動の改善に対する業務の効率的な処理につ いて、組織の一員としての役割を果たすため、	○	○			○	
			(態)	グループウェアに関する知識、技術を身に付け、 企業活動の改善に対する業務の効率的な処理につ いて、組織の一員としての役割を果たすため、主 体的かつ協動的に取り組むことができたか。				○	○	
合計										117

# 東京都立八王子桑志高等学校 令和7年度 年間指導計画（シラバス）

教科・分野：	産業・ビジネス情報	科目：	企業会計Ⅱ	単位数：	2	指導学年：	2
担当教諭：							
使用教科書	新財務会計Ⅰ（実教出版）	副教材	反復式学習と検定財務会計Ⅰ問題集（実教出版）				

## 年間指導目標：

- ・財務会計について実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。
- ・企業会計に関する法規と会計基準を学び、ビジネスに携わる者として、会計的側面から企業を分析する力を養う。
- ・会計責任を果たす力を学び、適切な会計情報の提供と効果的な活用主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

評価規準	知識・技能（知）	思考力・判断力・表現力（思）	主体的に学習に取り組む態度・学びに向かう力（態）
	商業の見方・考え方を働かせ、実践的な学習活動を行うなかで企業会計に関する知識と技能を身に付けている。	ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に課題に対応する力を身に付けている。	適切な会計情報の提供と効果的な活用に主体的かつ協働的に取り組んでいる。

評価方法				
a:定期考査	b:パフォーマンス (実技・実習・課題)	c:小テスト等	d:自己評価	e:授業態度

学期	考査	単元及び指導内容	観点	評価規準	評価方法					配当 時数
					a	b	c	d	e	
1 学期	中間 考査	第1編 財務会計の基礎 第1章 企業と会計 第2章 企業会計制度と会計法規 第2編 貸借対照表 第3章 貸借対照表のあらまし 第4章 資産の意味・分類・評価	(知)	・財務会計の基礎的な知識を身に付けている。 ・企業会計制度と会計法規、会計基準との関係を身に付け、会社法と会社計算規則、金融商品取引法と財務諸表等規則、企業会計原則など会計諸則の実際の規定を検索し、利用することができる。 ・資産の評価基準について、その内容を理解し、習得することができる。 ・当座資産とその評価について、その内容を理解し、会計処理を習得している。	○					12
				(思)	・会計を学ぶことの意義と必要性を考えようとしている。 ・企業会計制度のしくみについてそれぞれの意義や必要性を考慮することができる。 ・それぞれの資産について、どういう特徴を持つかなどを考え、分類と評価にあたり適切な判断ができる。 ・当座資産の会計処理に関して、自らの思考を深め、基礎的・基本的な知識と技術を活用して適切に判断できる。			○		
				(態)	・企業会計の制度とそれを支える会計諸則について関心を持ち、その学習を積極的に進めようとしている。 ・資産の分類と評価の理解に関心を高めその学習を積極的に進めようとしている。 ・当座資産の意味と種類に関心を高め、その学習を積極的に進めようとしている。				○	

1 学 期	期 末 考 査	第5章 流動資産（その2 棚卸資産・その他の流動資産） 第6章 固定資産（その1 有形固定資産） 第7章 固定資産（その2 リース取引） 第8章 固定資産（その3 減価償却）	(知)	・資産の区分について、流動性のあるものや長期にわたって動かないものの区別や会計処理に仕方について理解している。 ・固定資産について、有形・無形の区別やリース取引、減価償却、特許権・商標権など権利の資産など固定資産の区分や種類を理解している。 ・その他の資産についても、理解し会計処理を行うことができる。	○						12
		第9章 固定資産（その4 無形固定資産） 第10章 固定資産（その5 投資その他の資産）	(思)	・固定資産について、無形固定資産・有形固定資産の区分とそれぞれの特徴や意味について自ら考えて区分することができる。				○			
			(態)	・学習にあたって、自ら学び主体的かつ協動的に取り組む態度を身に付けている。						○	
2 学 期	中 間 考 査	負債について 第11章 流動負債 第12章 固定負債 第13章 純資産の意味と分類	(知)	・負債について、流動負債と固定負債に区分することができる。 ・流動負債・固定負債の取引を理解し、会計処理を行うことができる。	○						16
			(思)	・資本金や資本剰余金、利益剰余金について、その用途を理解するとともに、どのような働きがあるのかを考えることができる。 ・繰越利益剰余金など分配するカテゴリーを考えて会計処理を行うことができる。				○			
			(態)	・負債や純資産について、企業のお金の流れを理解している。						○	
2 学 期	期 末 考 査	第14章 資本金 第15章 資本剰余金 第16章 利益準備金 第17章 自己株式 第18章 貸借対照表の作成 第19章 損益計算書のあらまし 第20章 損益計算の意味と基準 第21章 売上高 第22章 売上原価・販売費及び 一般管理費	(知)	・今までの取引を踏まえて、貸借対照表の作成を行うことができる。 ・今までの取引を踏まえて、損益計算書の作成を行うことができる。	○						16
		第23章 営業外収益・営業外費用 第24章 特別利益・特別損失 第25章 損益計算書の作成 第26章 その他の財務諸表	(思)	・貸借対照表・損益計算書の作成をする意味を理解し、作成したもので経営状態を考えることができる。				○			
			(態)	・作成したもので企業の財政状態を理解しようとしている。						○	
3 学 期	学 年 末 考 査	第27章 財務諸表のディス クロージャー 第28章 財務諸表分析 第29章 連結財務諸表のあら まし 第30章 連結財務諸表の作成 第31章 連結財務諸表の作成	(知)	・財務諸表を分析して、企業状態を理解することができる。 ・今までの復習を行い、理解できていない部分を補うことができる。	○						22
			(思)	・財務諸表の作成し、会計の流れを理解することを考えている。				○			
			(態)	・学習に対して積極的に取り組む姿勢がみられる。 ・会計全体の流れをしっかりと理解しようとしている。						○	
合計										78	

# 東京都立八王子桑志高等学校 令和7年度 年間指導計画（シラバス）

教科・分野：	商業・ビジネス情報	科目：	原価計算	単位数：	3	指導学年：	2
担当教諭：							
使用教科書	原価計算（実教出版）	副教材	反復式学習と検定原価計算問題集（実教出版）				

## 年間指導目標：

- ・原価計算に関する会計処理及び原価情報の活用について実務に即して体系的・系統的に理解させる。
- ・原価計算に関する会計処理及び原価情報を活用する方法の妥当性と課題を見だし、課題に対応する力を養う。
- ・企業会計に関する法規と基準を適切に適用する力及び適切な原価管理を行う力を養う。

評価規準	知識・技能（知）	思考力・判断力・表現力（思）	主体的に学習に取り組む態度・学びに向かう力（態）
	商業の見方・考え方を働かせ、実践的な学習活動を行うなかで原価計算に関する知識と技能を身に付けている。	ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に課題に対応する力を身に付けている。	適切な原価情報の提供と効果的な活用に主体的かつ協働的に取り組んでいる。

評価方法				
a:定期考査	b:パフォーマンス (実技・実習・課題)	c:小テスト等	d:自己評価	e:授業態度

学期	考査	単元及び指導内容	観点	評価規準	評価方法					配当 時数
					a	b	c	d	e	
1 学期	中 間 考 査	第1編 原価計算の基礎 第1章 原価と原価計算 第2章 原価計算のあらまし	(知)	製造業の特徴や原価の基本的な内容について理解している。原価要素の性格とその分類について理解している。原価要素を集計する過程で原価計算表の役割を理解している。	○					23
		第3章 工業簿記—製造業における簿記— 第2編 原価の費目別計算	(思)	工業簿記と原価計算の関係について理解し、適用される場面を思考・判断することができる。			○			
			(態)	製造業における原価計算と工業簿記に興味を示し、自ら学習しようとする態度が見られる。					○	

1 学期	期 末 考 査	第4章 材料費の計算 第5章 労務費の計算 第6章 経費の計算 第3編 原価の部門別計算 と製品別計算	(知)	材料費・労務費・経費の分類とその内容を理解している。その消費高を計算できる。 個別原価計算のしくみを理解し、原価計算表に記入ができる。	○					24
		第7章 個別原価計算	(思)	製造間接費の配賦方法について理解し、適切に配賦を行える。また、実際配賦の欠点を説明でき、予定配賦による記帳を行える。				○		
			(態)	学習にあたって、自ら学び主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けている。					○	
2 学期	中 間 考 査	第8章 部門別個別原価計算 第9章 総合原価計算 第10章 工程別総合原価計算	(知)	部門別個別原価計算の必要性が理解できている。また、部門費配分表、部門費振替表を作成でき、それぞれにもとづく記帳ができる。	○					23
		第11章 総合原価計算における減損・仕損じなどの処理	(思)	原価部門の設定について部門別計算の目的から考え、各部門の役割について表現できる。 原価計算の方法が異なる個別原価計算と総合原価計算の違いを説明することができる。				○		
			(態)	本章の学習にあたって、自ら学び主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けている。					○	
2 学期	期 末 考 査	第4編 製品の完成・販売 と決算 第12章 製品の完成と販売 第13章 決算と本社・工場 間の取引	(知)	製品の完成と販売に伴う手続きと記帳方法が理解できている。また、販売費及び一般管理費の記帳方法が理解できている。 工場会計の独立を理解し、記帳ができる。	○					24
			(思)	財務諸表の特色を理解し、製造原価報告書の作成ができる。 本社工場間の取引の記帳を本支店間の取引と比較して考えている。				○		
			(態)	自ら学び主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けている。					○	
3 学期	学 年 末 考 査	第5編 標準原価計算の基礎 第14章 標準原価計算（その1） 第15章 標準原価計算（その2）	(知)	標準原価計算の意義と特色、手続きについて理解できている。標準原価計算により完成品原価や月末仕掛品原価が計算できる。直接原価計算の意義と手続きについて理解できている。	○					23
		第6編 直接原価計算の基礎 第16章 直接原価計算（その1） 第17章 直接原価計算（その2）	(思)	なぜ、原価標準を設定するのかについて理解している。 損益分岐点比率と安全余裕率の意味を理解し、求めることができる。				○		
			(態)	原価管理について関心を持ち、意欲的に取り組む姿勢が見られたか。					○	
合計										117